

愛教労ニュース

「教育研究全国集会」

in長野 8月17～19日



1日目の全体集会ではジャーナリストの青木理さんによる『憲法改正』が教育をこわす！～ジャーナリズムの視点から』と題したフォーラム。

「日本ではまだ一度も民主主義を『勝ち取った』ことがない。民主主義とは一人一人が考えて行動し勝ち取るものだ。」との言葉に目を覚まされました。

夜には『こうあるべき』からの脱出～多様性と共生について考えよう』のフォーラムに参加。人間環境大学の折出健二教授がコーディネイターを務めました。氏は「その子どもがそこにいること（存在）から、直ちにその子は『こうあるべき』（当為）は生まれない」ことを強調。「こうあるべき」が提示される「学校スタンダード」や「〇〇できるようになる」ばかりが優先される教育現場において「あなたはここにいていい」という「存在」を肯定することが忘れ去られていないかと危機感をもちました。

フォーラムの後は恒例の愛教労懇親会。それぞれのフォーラムでの話題を共有しながら、料理とお酒を楽しみました。

2日目は「生活指導・自治的活動」の分科会に参加。自身は「学校スタンダード」の問題を扱ったレポート報告を行いました。北海道の若手中学教員のレポート「なめられる勇気」が興味を惹きました。「生徒になめられてはいけない」という圧力の高い中学校の現場で、報告者は「なめられる勇気」をもつことで、子どもたちとの信頼関係を強固にしようという教育実践でした。

夜は愛教労の青年部が、各種交流会「部活動を語る夕べ」を主催しました。

- 全国から20名近くの参加者があり、
- ①組合と部活動
 - ②大会と小・中・高体連について
 - ③「部活問題」これからの方向性の3つを柱として討論が展開されました。

①については、組合内で『部活について議論しよう』と提案しているだけなのに『組合が割れる』と退けられる等の問題点が出され、これに対し「組合内で専門部会を設けるべき」という意見が大勢を占めました。②については「全中はやめれば良い」という意見の一方、「運動部の大会はマスコミが主催してはいけない。学校スポーツを美化しすぎている」など、問題は体育連盟だけに存在するのではないことが確認できました。③については、このような学習交流会をこれからも折を見て開催し、お互いの意識や連帯を高めていくことの必要性が確認されました。

3日目は「無言館」と「松代大本営」のフィールドワークに参加しました。

館主の窪島誠一郎氏はかねて『無言館』と『政治』は切り離して考えるべきだと主張してきたのですが、そんな窪島氏が持論を「撤回」したのは、2015年「安保関連法」の成立前後。「今の政治情勢が進めば、やがてどこかで新しい『無言館』を建設する槌音が聞こえてくる」「それは『無言館』にならぶ画学生たちの声なき声を圧殺することでもある」

「安保関連法」はそれほどまでに大きな問題であったのだと改めて思い知るのと同時に、やはり「人の営み」と「政治」とは切っても切り離せぬものだと思いを再認識しました。

松代大本営は大戦末期「本土決戦」に備え、東京の大本営と天皇を移転しようと計画・建設された大規模地下壕です。以前からその名は聞いたことがありましたが、いざ訪問してみると、その規模の大きさに驚かされました。一刻も早く完成させようと建設は急ピッチで進められた一方で「本土決戦」を一刻でも遅らせようと捨て石にされたのが沖縄であったと聞き、沖縄への差別は今も昔も変わらず存在し続けているのだと思いました。

現地に行き、学び、交流することで、ぼんやりとしか見えていなかったものが、はっきりと像を結ぶ。私が毎年のようにレポーターを引き受け、全国教研に参加している理由はここにあります。

「愛知の教育を考える集い」開催

2018年 愛教労 愛知の教育を考える集い

日時：2018年10月27日（土）
 場所：労働会館（「金山」駅下車・徒歩8分）

記念講演：
 「どうする!? 道徳科
 ～道徳教育のベクトルを変える～」
 講師…渡辺 雅之 さん（大東文化大学）

日程	分科会（本館）13:10～16:00
（午前）全体会（東館） 9:30～9:50 受付 9:50～10:00 新入 10:00～10:10 開会あいさつ 10:10～12:10 記念講演 （午後） 12:10～13:10 昼食・休憩 13:10～16:00 分科会 16:00 解散	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 授業づくり・学習づくり（小・中学校） ◎ 困難を抱えている子に寄り添う教育 ◎ どう考える・どうしたらいい 部活動問題・全国学力テスト 政治と教育（前川喜平さん《前文科省事務次官》の講演内容調査問題）など

会場案内
 ※JR・地下鉄・名鉄の各線「金山」下車
 徒歩8分
 （イオン熱田の方向へ線路沿いに歩く）

講師 渡辺 雅之 さんの紹介
 埼玉県で中学校教師として22年間勤務。いじめ非行問題などに取り組み、3年B組金八先生（第4シリーズ）にいちめを取り上げた実話ドラママ化される。現在は大学で教育を目指す学生たちの指導にあたりながら、全国で積極的に講演活動を展開している。専門は「生活指導」「道徳教育」「多文化共生教育」など。反差別カウンターや国会前抗議アクションなど路上に出る研究者でもある。

◎参加費無料
 この集いには、どなたでも参加できます！
 主催：愛知県教職員労働組合協議会（愛教労）
 TEL: 052-242-4474
 ホームページ：「愛教労」で検索

自由は土佐の山間よりみず

—第64回日本母親大会 in 高知— 8月25/26日



高知市は緑の山に囲まれたこぢんまりとした城下町で地元の方の温かい人情にも触れることができました。土佐は自由民権運動の発祥の地として、「日本初の女性参政権」「勤評闘争」「8年に及ぶ原発反対」「教科書無償化運動」「学校災害補償制度の確立」を勝ち取ってきた土地です。

全体会講演での渡辺 治先生は、日本国憲法をめぐる72年の攻防を熱すぎる情熱で語られ、圧倒されました。「今日の活動」は日本中で様々な問題に取り組む女性たちがいることを実感し勇気づけられる機会です。今年特に多かったのは女性差別問題と、オスプレイなど基地問題でした。

分科会は「お金の心配なく学べる教育を」に参加しました。弁護士の谷脇和仁さんが子どもの貧困の実例や奨学金のあり方などを報告されました。「40歳近くまで夫婦で奨学金を返しながら子育てをしている」「父子家庭だが、制度について何も情報がなく自分から申請しないと何ももらえないことに驚いた」「小学校特別支援学級の11人中10人が準要保護の家庭。中学校の制服などが買えない」などの、切実な声が出されました。給食無償化やエアコンの設置など教育と

お金に係わる問題は多くあります。

谷脇先生のまとめで心に残ったのは、「要求を誰が出していくか」ということです。親や教師が運動するだけでなく、子どもたちが自分の要求を出し合い行動することを生徒会活動などで学ぶ「主権者教育」が大切だということです。もう一つは、教育を受けることは「憲法13条や26条に保障された権利」であって、親の責任ではなく社会の責任で行うものだという立場にしっかりと立つことが大切だということです。



往復の交通機関や観光地などに全国からの4300人の女性が(男性も)あふれ、エネルギーに歩き、しゃべり、食べ、交流する「元気の出る会」です。

来年は静岡です。是非皆さんもご参加ください。

5年連続のプラス勧告は、雀の涙。 「給与制度の総合的見直し」による大幅賃下げの被害は甚大。 ——2018人事院勧告・報告をうけて—— 9/7

8月10日、人事院により国家公務員の給与等に関する勧告が出されました。勧告・報告の概要は、以下の通りです。

勧告・報告の概要

〈月例給〉

初任給1,500円、若年層1,000円程度、その他は400円の引き上げを基本。

〈ボーナス〉

4.40ヶ月分を4.45ヶ月分へ引き上げ。勤勉手当に配分。

〈臨時・非常勤職員の待遇改善〉

結婚休暇を設けるなど慶弔にかかる休暇について所要の措置。

〈定年引き上げに関する意見の申し出〉

定年を段階的に引き上げ、最終的に65歳。60歳を超えた職員の年間給与を60歳前の7割の水準に。

県人事委員会の議会への報告・勧告が、10月の第2週に出されるからです。

- 「給与制度の総合的見直し」完了に伴う現給保障の廃止による賃下げを補完する措置。
- 駅の駐輪場利用にかかる費用の負担。
- 臨時教職員の処遇改善について、特に定数内講師をやめ、正規教員にするための工程表の作成や、継続して雇用する場合の「空白の1日」が生じないような改善措置。
- 不妊治療を目的とした休暇の制度化。
- 教職員の多忙化解消にかかわる実効ある取り組み等を要求しました。

要求の中で、人事委員会事務局は、「教員の働き方については、昨年度に引き続き言及されるのではないかと我々組合の要求に前向きな回答をしました。しかし、不妊治療は「未だ多くの県で制度化されているわけではない。」駐輪場の費用負担は「民間がおこなっている」と言うデータは無い。」と否定的な回答でした。

愛教労は、愛知県人事委員会に8月31日要求書を提出し、9月7日に交渉を行いました。これは、愛知